

感染症情報 1月21日～27日

府下小児科199医療機関(堺市19)から

①感染性胃腸炎	1,490例(堺市	95例)
②溶連菌感染症	447例(堺市	69例)
③RSウイルス感染症	134例(堺市	12例)
④伝染性紅斑	105例(堺市	10例)
⑤みずぼうそう	68例(堺市	6例)

府下インフルエンザ定点302医療機関(堺市29)から

インフルエンザ 14,493例(堺市 1,442例)

感染症報告数は前週比8.6%増の2,426件であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で、以下溶連菌感染症、RSウイルス感染症、伝染性紅斑、みずぼうそうの順であった。

感染性胃腸炎は府下で前週比10%増、堺市は同7%増であった。溶連菌感染症は府下で18%増、堺市で47%増であった。RSウイルス感染症は府下で9%増、堺市で9例→12例であった。伝染性紅斑が府下で6%減、堺市で7例→10例となった。みずぼうそうが府下で26%増、堺市で4例→6例であった。

インフルエンザが府下で前週13,920例→今回14,493例となった。4%増で定点当たりの報告数は46.09→47.99となり、引き続き大阪府全ブロックで警報レベルを超えている。堺市では前週1,521例→今回1,442例となった(5%減、定点当たり49.72)。

麻疹の報告が府下で今回11例あり(堺市はなし)。いよいよ感染拡大が懸念される。風疹も府下で同11例あった(堺市で1例)。